

安全データシート (SDS)

1 化学品及び会社情報

化学品の名称

製品名 エヌキャッチ

会社情報

会社名 株式会社ファイトクローム
担当部署 研究開発室
住所 〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町 2 番 11 号
電話番号 03-4316-4920
Fax 番号 03-4316-4921
電子メールアドレス
緊急連絡電話番号 03-4316-4920

推奨用途及び使用上の制限

農業用途

2 危険有害性の要約

GHS 分類 分類基準に該当しない

物理化学的、人体及び環境への影響 私たちの知る限り、本製品は適切な労働衛生及び安全慣行に従って取り扱われる限り特別な危険をもたらすものではない。

GHS ラベル要素

GHS 分類 分類基準に該当しない
危険有害性情報 非該当

他の危険有害性

情報なし

重要な徴候及び想定される非常事態の概要

情報なし

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

組成及び成分情報

| 化学名又は一般名 | CAS 番号 | 官報公示整理番号 | 濃度又は濃度範囲 (wt%) |
|---|--------|----------|----------------|
| <i>Gluconacetobacter diazotrophicus</i> | — | — | |

※GHS-CA 分類対象外

4 応急措置

ばく露経路による応急措置

| | |
|-----------|--|
| 吸入した場合 | 空気の新鮮な場所に移すこと。 |
| 皮膚に付着した場合 | 多量の水と石鹼で洗うこと。必要に応じて医師の診断を受ける。 |
| 眼に入った場合 | 水で 15～20 分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用している場合は、洗眼を初めて 5 分後に外し、その後も洗浄を続けること。 |
| 飲み込んだ場合 | 口をすすぎ、大量の水又は牛乳を飲ませて希釈する。無理に吐かせてはいけない。応急措置を施した後、必要に応じて医師の診断を受ける。 |

遅発性症状の最も重要症状及び影響

| | |
|-----------|------|
| 皮膚接触後の症状： | 刺激性 |
| 目接触後の症状： | 目刺激性 |

医師に対する特別な注意事項

対症療法治療

5 火災時の措置

適切な消火剤

水噴霧、粉末消火剤、泡沫消火剤等

使ってはならない消火剤

追加情報なし。

特有の危険有害性

反応性：本製品は、通常の使用、保管、保管条件下では反応性がない。

特有の消火方法

- 消火剤を火元へ放射、散布等をして消火する。
- 消火作業は可能な限り風上から行う。
- 移動可能な容器は速やかに安全な場所に移動する。
- 火災発生場所の周辺には関係者以外の立ち入りを禁止する。

消火を行う者の保護

消火作業では、状況に応じて適切な保護具、自給式呼吸装置を着用する。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外の立ち入りを禁止する。

作業者は適切な保護具（「8 ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

作業の際、吸入や皮膚に触れない様、適切な保護具を着用し、換気を良くして処理する。

環境に対する注意事項

特になし。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

こぼれたものを集める。粉塵を巻き上げず、やさしく粉を掃き集める。その後、消毒剤を含んだきれいな水で表面をモップ掛けする。地域の規則にしたがって廃棄する。

二次災害の防止策

すべての発火源や可燃性物質を速やかに取り除く。

7 取り扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

換気の良い場所で使用すること。使用しないときは容器を密閉しておく。取り扱い場所に粉塵が蓄積しないようにする。粉塵の吸入、皮膚や目への接触を避けること。個人用保護具を着用すること。

安全取扱い注意事項

取扱い後はよく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。
適切な保護具を着用して作業を行う。

接触回避

「10 安定性及び反応性」を参照。

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。
取扱い場所の近傍では飲食、喫煙の禁止。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

保管

混触禁止物質

「10 安定性及び反応性」を参照。

適切な保管条件

乾燥した涼しい場所に密閉容器に入れ、火気から遠ざけて保管すること。

8 ばく露防止及び保護措置

管理濃度

追加情報なし。

設備対策

風通しの良い場所で保管する。強い気流や風のある場所では容器を開けないこと。

保護具

| | |
|------------|------------------------------------|
| 呼吸用の保護具 | 軽度の炎症を引き起こす可能性がある：粉塵マスク FFP2 推奨 |
| 手の保護具 | 保護手袋を着用する。 |
| 眼の保護具 | 保護眼鏡やゴーグルを着用する。 |
| 皮膚及び身体の保護具 | 保護衣、長袖作業服等を着用する。 |

9 物理的及び化学的性質

| | |
|--------------------|--|
| 外観（物理化学的状態、形状、色など） | 粉状 白色からベージュ色 |
| 臭い | 無臭～かすかなカラメル臭 |
| 臭いの閾値 | 情報なし |
| pH | 5-7（1%水溶液） |
| 融点・凝固点 | 情報なし |
| 沸点、初留点及び沸騰範囲 | 情報なし |
| 引火点 | 情報なし |
| 蒸発度 | 情報なし |
| 蒸気圧 | 情報なし |
| 相対密度 | 情報なし |
| 飽和ガス/空気混合気体の相対密度 | 情報なし |
| 相対蒸気密度 | 情報なし |
| 比重 | 情報なし |
| 溶解度 | 水：完全溶解 |
| 自然発火温度 | 情報なし |
| 分解温度 | 情報なし |
| 燃焼性 | 不燃性 |
| 燃焼範囲の上限 | 該当なし |
| 燃焼範囲の下限 | 粉塵として空气中に浮遊する場合 25～45 g/m ³ （注：市販の粉状） |
| 可燃性特性 | 本製品は、包装された量での通常の使用においては可燃性ではない。バルク等大量に取り扱う場合、粉塵は潜在的に可燃性（空气中の粉塵密度が高い場合に有機粉塵による火災や爆発の危険性がある）であると考えべきである。このような状況下では、本質安全防塵システム、洗浄手順、電氣的接地およびその他の安全対策を用いて爆発の危険性を回避する必要がある。 |

10 安定性及び反応性

| | |
|------------|--|
| 反応性、化学的安定性 | 安定で、自己重合性はない。 |
| 危険有害反応可能性 | 特記すべき反応性なし。 |
| 避けるべき条件 | 熱、炎、その他の着火源。 |
| 混触危険物質 | 酸化剤。 |
| 危険有害な分解生成物 | 生分解性、非遺伝子組み換え。熱により製品は燃焼・酸化し、炭素、一酸化炭素、二酸化炭素を生成する。 |

11 有害性情報

| | |
|-------------------------|---|
| 主な接触経路 | 目または経口 |
| 皮膚： | データなし。 |
| 目： | 目に対する刺激の恐れ。 |
| 吸入： | くしゃみや咳が出ることがある。 |
| LD ₅₀ 細胞/マウス | |
| 腹腔内致死量： | LD ₅₀ v/h >2x10 ⁹ |
| 経口試験における致死量： | LD ₅₀ per os >15x10 ⁹ |

12 環境影響情報

製品の環境影響情報

| | |
|---------|---|
| 生態毒性 | ミツバチ、急性経口毒性試験 (OECD No. 213)情報 注射 LD ₅₀ 3242.80 µg/個体 半経口 LD ₅₀ 3421.21 µg/個体 ミミズ (ISO 11268-1:2003) LD ₅₀ 4398.10 mg/kg |
| 残留性・分解性 | 残留性低い。(生分解性) |
| 生体蓄積性 | 生体蓄積性はないと予想される。 |
| 土壌中の移動性 | 水に完全に溶ける。 |
| その他の有害性 | 追加情報なし |

13 廃棄上の注意

残余廃棄物

製品の梱包材や残留物を再利用しない。廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。

汚染容器及び包装

環境汚染や水質汚染、食品や飼料への汚染を防ぐため、空容器や内容物は安全な方法で処分する。空容器は絶対に食品や水の貯蔵に使用しないこと。

14 輸送上の注意

国際規制

陸上輸送（ADR/RID の規定に従う）

| | |
|-------|-------|
| 国連番号 | 該当しない |
| 品名 | 該当しない |
| 国連分類 | 該当しない |
| 副次危険性 | 該当しない |
| 容器等級 | 該当しない |

海上輸送（IMO の規定に従う）

| | |
|---------|-------|
| 国連番号 | |
| 品名 | 該当しない |
| 国連分類 | 該当しない |
| 副次危険性 | 該当しない |
| 容器等級 | 該当しない |
| 海洋汚染物質 | 該当しない |
| IBC コード | 該当しない |

航空輸送（ICAO/IATA の規定に従う）

| | |
|-----------|-------|
| 国連番号品名 | 該当しない |
| 国連分類副次危険性 | 該当しない |
| 容器等級 | 該当しない |
| | 該当しない |
| | 該当しない |

国内規制

| | |
|--------|-------|
| 陸上規制情報 | 該当しない |
| 海上規制情報 | 該当しない |
| 海洋汚染物質 | 該当しない |
| 航空規制情報 | 該当しない |

緊急時応急措置指針（容器イエローカード）番号

該当しない

特別の安全対策：

業務用の個包装の場合、特別な予防措置は必要ない。

15 適用法令

国内法令

該当しない

国際法令

Gluconacetobacter diazotrophicus

米国 TSCA（有害物質規制法）に記載されていない。

16 その他の情報

参考文献

株式会社ファイトクローム提供資料

日本産業衛生学会 (2016) 許容濃度等の勧告

ACGIH, American Conference of Governmental Industrial Hygienists (2016) TLVs and BEIs.

【注意】本 SDS は、JIS Z 7253:2012 に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意ください。本 SDS の記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更する場合があります。また、注意事項等は通常の実施を前提としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。